令和元年度
ブラジル通信

けんぱくしけんぶんろく 遣伯使見聞録

No. 8
20191012
学校教育課
夏目　裕介

Obrigado（オブリガード：ありがとう）　***De nada***（ジナーダ：どういたしまして）

② 10月8日(火) CECILIA MEIRELES 学校訪問(二部制) ⇔ 牛川小学校

ホザンジェラ校長(17 年目)
●児童数　540人
（特別支援　14人）
●教員数　28人
●学級数　20学級
（午前8＋午後8）
●IDEB　　8．0

【校長先生の話】

子どもも先生たちも保護者もみんな大事。学校が家族のようになればいい。先生たちのアイディアを吸い上げて、学校運営に生かしている。不登校や問題行動を起こす子どもはほとんどいない。何かあれば、校長や生活担当の教員が保護者を呼んで話をする。

★校長先生は１７年も校長としてこの学校を支え、職員や保護者から全面的な信頼が置かれています。教師に任せているとはいえ、研究授業は行わないのには驚きました。教師の力量向上には授業を見合うことはよいことですよと伝えました。街の中心部の学校らしく、子どもたちはとても落ち着いていました。

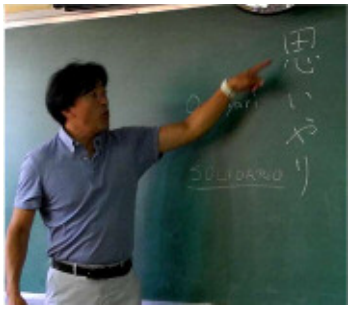
③ 10月9日(水) AYRTON SENNA 学校訪問(全日制) ⇔ 岩西小学校

マレネ校長（3年目）
●児童数　330人
（特別支援　12人）
●教員数　33人
●学級数　18学級
●IDEB　　7．1

【校長先生の話】

家族が仲良くなくて、問題の多い難しい地域。親が勉強しなかったから子どもにも勉強をさせようとしない。親からの愛情を受けていない子たちで、けんかが多く、不登校の子もいる。教員には「子どもをかわいそうと思わない。『立派な大人になって』と言い続けて！」と言っている。「子どもの日」に何がほしいですか？という願いをかなえてあげる。

★難しい問題を抱えた子どもたちが多いようでしたが、子どもたちは「ボンジーヤ！」とよくあいさつをしてくれました。先生たちはみんな女性で、子どもたちに負けないパワフルな方ばかりでした。覚えてほしい日本語として「ありがとう」と「思いやり」を伝えました。



けがしない！？　　～ナッツコラム～

車に乗っていて「あっ危ない！」と思うことがあるね。狭いところもクラクションを鳴らして、割り込みながら運転するのは当たり前。同じく、コンクリートの校庭を激しく追いかけ合う子どもたちを見ていても危なくないかなってナッツは思っている。ところが比較的交通事故は少なく、けがをする子も少ないんだって。日本は交通事故が多いし、けがをして保健室に来る子がいっぱいいた。これには何か関係があるのではないかと、ナッツは思っているのであった。　（ナッツの腕時計より）